



中高生とともに差別と闘う

「交流してこそ」

吉成タダシ



正しく知れば、こわくない

さて、前号からの続きで、ハンセン病回復者との交流会の様子について、子どもたちの感想を交えながら紹介しておきたいと思えます。

「ハンセン病回復者がいるということなので暗いイメージがあったのですが、実際に行ってみると、回復者のみなさんはとても明るく、僕も思っていたイメージとは全然違いました」

「今回大島に行つて、初めてハンセン病回復者の人たちと会いました。会う前は、正直、「暗そう」「こわそう」という印象がありました。しかし、実際に会ってみると、とてもやさしく、明るく、いい人たちでした。質問をしたときもていねいに教えてくれました。その中で私の印象に残った言葉は、「過去のことはふりかえず、恨まず、そんなことを考える時間があるなら、明日のことを考える」という言葉です。私はこの言葉を聞いて、とても強い人だなと思いました。もしも私だったらと考えると、過去のことを絶対に恨みます。いや、絶対つらいことの方が多かったと思えます。「私は楽天家なので」とおっしゃっていました。それが、そう考えられるようになったのにも、長い時間が必要だったと思えます」

知らないってこわいです。知らないで勝手にイメージをつくり、それが偏見につながっていく…。ハンセン病回復者に対しても、様々な被差別

別当事者に対しても、「暗いこわい」というイメージを勝手にもっていたりします。失礼な話です。よく知らない側の偏見であり、勝手なイメージの押しつけです。親しく深く知っていくと、何でも笑い飛ばしてしま

う懐の深さや明るさ、元気を目の当たりにすることができているのです。それが、それも交流あつてこそです。

尊敬の存在として

「交流会では、三人の回復者から、ハンセン病差別から生まれた悲しい出来事をたくさん聞かせていただきました。例えば、十五日間働いたとしても、収入がピン球一個を買えるくらいであるとか。両親が亡くなつたときに帰って来なくてもよいと言われ、現在もお墓参りができてないとか。他にもいろいろなお話を聞かせていただきました」

「入所者の方々は、みなさん明るい方ばかりでした。その背景には、引き離された家族や故郷の思いもあつたと思えます。宗教によって新しい考え方に会つたり、趣味をして明るく変われるなんて驚きです。私には到底無理だと思えます。人間という扱いをされていなかったのですから。「死んでいることになってい

ることは恨まない」「過去をふり返る時間があつたら明日のことを考える」といった言葉が言えるのでしょ

うか。理解しがたい部分がありながらも、ハンセン病と闘い、今日まで生き続けてこられた方々を深く尊敬したいと思いました」

たかさんの貴重なお話を聞かせていただきました。なかには、まるで映画「砂の器」を彷彿とさせるような生き様をお話ししてくださる方もいました。けど、聞けば聞くほど、「かわいそう」といった同情的な思いではなく、純粹に、「すごい」といった尊敬の念にしかありませんでした。つまり、目の前にいる人たちは、「かわいそう」な人たちではなく、「すごい」人たちなのです。そういった意識の変化も、交流あつてこそです。

くわだて

「ハンセン病はうつらないと言われてからも、本土とは離れた島に連れてこられた」それを聞いただけでも、人から離れた存在になつてしまったようで、胸が苦しくなりました。でも、今回療養所の方のお話を聞いて、その後の暮らしも、偏見や差別的な扱いによって、ひどいことをされたことがわかりました。人を人として認めない、そんなひどいことを何十年にもわたつてしてきた世の中に、私は怒りしか出てきませんでした。

今では、園内も目が不自由な方々のための設備などが整つていて、かつ

て人々に人生を奪われた方たちが、自分の生きがいを見つけて楽しそうに暮らしているのを見て、少しだけ安心することができました。

でもやっぱり、その人たちの過去を変えることはできません。だからこそ、今もどこかで続いている偏見などをなくしていくため、私たちが代表として教わつてきたことを、他の人たちに伝えていく必要があると思えます。私たちがハンセン病について改めて知つたように、みんなにも、この深刻な問題に関心をもってもらいたいです。そして、この学習で終わりではなく、より人権について深く学び、昔の出来事を忘れないように、胸にとめておこうと思いたした」

「私たちに今できることは、この研修で学んだことを、より多くの人に知ってもらうことです。自分たちのちっぽけな失敗や出来事にとらわれずに、前向きに明るく、明日を、そしてこれから生きていきたいと強く思えます。

「生かされている」

「力強く生きていく」

生きていくうえで大切なことを学ばせていただきました」

さあ、どうやって伝え、知らせるか。模造紙にまとめて張り出しはしましたが、それでは体温までは伝わりません。やはり、感じた体温をそのまま伝えてほしい。ということ。このメンバーと共に、ある計画をくわだてることにしました。